

# 会 議 録

## 1 会議名

平成29年度第5回牧区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### ○協議事項

（1）地区懇談会で提出された課題の検討について（公開）

（2）視察研修の所感及び反省等について（公開）

### ○報告事項

（1）牧区・清里区地域協議会合同研修会の開催について（公開）

（2）7月の大雨に関する被害状況について（公開）

## 3 開催日時

平成29年8月22日（火）午後6時30分から午後8時30分まで

## 4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委員：丸山 進（会長）、五十嵐正則、折笠弘志、金井貞子、佐藤祐子、西山新平、  
前山美智弘、渡辺喜一

・事務局：牧区総合事務所 高橋所長、橋詰次長、宮腰G長、綿貫班長、風間主任

## 8 発言の内容（要旨）

### 【橋詰次長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【丸山 進会長】

・挨拶

【高橋所長】

・挨拶

【丸山 進会長】

・会議録の確認：金井貞子委員に依頼

【丸山 進会長】

協議事項（１）地区懇談会で提出された課題の検討について、事務局に説明を求める

【綿貫班長】

資料により説明

【丸山 進会長】

この件については、事務局から事前に資料を送付済みとのこと。よって、皆さんから目を通していただいていることを前提として説明させていただくが、ご質問・ご意見があれば出していただきたい。

委員が話す機会はあまりなかったが、地域の皆さんがどのような考え方で牧に住んでおられるのか、どんな要望があるのかを知るために、行政と一緒に出席させていただいた。その際の感想や、意見質問等で同調、あるいはまた反対の意見があれば出してほしい。資料は各地区の意見等をまとめた物である。地域協議会、委員としてぜひ取り上げたい部分があれば上げて欲しい。特になければ次の議題へ移らせていただきたい。

中には地域協議会についての質問等も出ている会場もあったことから、この組織の在り方等が知れ渡っていない部分があるのではないかと。協議会だより等で、都度説明していくより仕方がないのではないかと。

資料は総合事務所で内部検討されていると思うが、協議会としては特に意見等はないか。

【前山委員】

内部検討されていることを説明いただきたい。

【高橋所長】

市の根本にある制度については所管課に伝えてあり、また別の組織の中で検討していると思うが、先ほども挨拶の中でお話させていただいたとおり、牧区総合事務所に対し

ていただいたご意見については、実現するような形に向けて検討を順次進めているところであり、また、その結果等については文書等でお知らせしたいと思う。

**【丸山 進会長】**

資料1－2懇談会に対するアンケートについて、ご意見があれば出していただきたいと思う。概ね、どの項目も現状でよいという意見が多いが、中にはもう少し細かく集落ごとに入っていただきたいという意見もある。行政主催の懇談会であり、我々が便乗させていただいているので、とやかく言うわけではないが、出向いて行き、感じた部分があれば出してほしい。無いようであれば、次の視察研修の所感及び反省について進める。

**【前山委員】**

それでは地区懇談会の課題について、この協議会は検討しないということなのか。

**【丸山 進会長】**

今は検討するかしらないかではなく、この中から委員会で取り上げ、ここで検討する部分があるかないかを聞いている。

**【前山委員】**

それは非常にあると思う。

**【丸山 進会長】**

皆さんから意見が出ない。

**【前山委員】**

意見が出ないということは、皆さんこれを見て、自分で考えをまとめて来られなかったということではないか。

**【丸山 進会長】**

我々が検討するのではなく、行政が検討する部分だと、そのような判断をされているのだと思う。検討が必要であれば意見が出ると思う。

**【前山委員】**

私は自分なりにまとめてきたが、誰も言わないので、私も意見を言わなかった。本来そのようなことを検討するのが協議会ではないか。

**【丸山 進会長】**

当然の意見だと思うが、今、その意見を出していただくための会議をしているのだが。

【前山委員】

すなわち委員が怠慢ということではないか。

【丸山 進会長】

それは皆さんの意見がないということ。

【前山委員】

または、告知がきちんとされていなかったため、他の委員はそこまで把握せず来られたかもしれないが、協議会として出た意見に対して検討する事項があるかどうか、それを検討し、牧区の課題として詰めていくのが我々の仕事だと思っている。地域活動支援事業の予算の分配とジャッジをするだけでなく、そのようなことが本来の地域協議会委員の仕事ではないのか。

【丸山 進会長】

全く私も同感である。

【前山委員】

であれば、会長には恨みも何もないが、逆にそれをきちんと表現できなかったことに問題があると思う。

【丸山 進会長】

そのために事前に資料を配ったのだが。

【前山委員】

これは資料ではない。ボイスレコーダーの録音を羅列して書いてあるだけで、誰も見ない。だから私は私なりに集計してきた。何の問題がどの区で多いのか、本当に喫緊で解決しなくてはいけない問題は何か。本来、事務局はそこまでして理事会や委員会に提出するものであり、そうしないと時間の無駄になる。斜め読みだけでは会長が何か意見はないかと言われても、何も出ない。であれば事務局はもう少し先回りして、どの地区でどんな意見が多いのか、全体に対してどのような問題が多いのか、事務局の所感くらいは委員会の資料として提出すべき。民間企業ではこんな資料を出せば、ふざけるなと言われて終わり。そこを指導しなかったことも間違っているし、これでは会長が言われたような会議にはならない。そこまでの資料と事務局の所感があれば、委員もそれなりに自分の考えを持ち、臨んでくる。羅列しただけの資料では全く意味がないと思ったし、最後に統計資料もない。これでは昨年と同じで何もしないまま3月になる。これで

はだめだ。それぞれに思いを持った方が集まっているのだから、本当に喫緊の課題を検討するチャンスがあるのだから、これを1年、2年、3年かけて緊迫感、緊張感をもって臨まなければ、なかなか前には進まないような気がしている。

#### 【丸山 進会長】

前山委員の意見として提出する。私自身も同感する。しかしながら、地区懇談会は行政が主催であり、我々がその中で検討する部分があるかないかということ。我々が主催したものであれば、そこまで詰めていかななくてはならないと思うが。行政主催の会議に便乗させていただき、集落の意見あるいは雰囲気、地域の皆さんがどのような考え方をもち、ここで生活し、生きようとしているのか、そのようなことを身をもって感じる必要があると考えたことから、皆さんからも参加いただいた。全会場に全員で行くことができたわけではないので、意見を集約した資料を見ていただきながら、この地区にもこういう考え方があるのか、であれば行政だけでなく地域協議会として我々の任期中でなんとかしなければならぬ、そのようなことを検討するための資料である。前山委員はまとめて来られたとのことだが、皆さんからもそのような姿勢でお願いしたい。ただ、我々が主催であれば意見を煮詰め、市に挙げなければならないが、事務局がまとめた資料について我々が提案することは、私は必要ないと思う。この委員の中で、行政の資料を借りてどう考えるのかということ。前山委員が言われていることは理解できるし当然だと思う。

皆さんはどのように考えられるか。

#### 【西山委員】

前山委員が言われることは、もっともで、確かにそのような検討をこれからしていかななくてはならないと思っている。当初、地区懇談会に参加することについては、我々もどんな意見が出てくるか聞こうとの思いから出席した。その結果がこのように文書でまとめられたとのことだが、せっかくいろいろな意見が出てきているので、動きが遅いにしても、ある程度この地域協議会として検討する事項がないかを改めてまとめる必要があるかと思うが。

#### 【前山委員】

だから今日はそれをやるのではないか。先延ばしばかりしているとあっという間に1年が過ぎてしまう。今日は委員がそれなりの覚悟を持って臨んでいるのかどうか。去年

は自主的審議事項の検討と言っても、結局何もできなかつたし今年も同じ。せっかくこのような題材を出してもらっているのだから、まずは検討し、協議会としてこれについて取り組もう、行政にはこちらで頑張ってもらおう、というような話ができるものと思いい今日は来ている。

**【丸山 進会長】**

言われることはわかるが、私はそのような話し合いは、資料2の方でお願いしたいと思っていた。視察先で牧区と同じような状況あるいはそれよりも悪条件のところでは活発に活動されていることを研修された中で、あちらにはどんな問題点があるのか、こちらの立場としてはどうか、こういう問題はどのように解決されている、これを牧区ではどう推進するのか、そのようなことを前山委員が言われたような方法で話し合いたかった。行政主催だが無視するのではない。委員のみなさんからは各集落に2人ずつ出ていただいたので、その検討は必要だと思う。前山委員が言われたように、今回は意見が出なくても、持ち帰り、もう1度目を通していただき、意見を持ってまた次回に臨んで来られたとすれば当然検討しなくてはならない。

資料2では、前山委員は今回欠席されたが、視察研修で得た物を牧区にどのように生かすべきなのか、また生かされない部分がどこにあるのか、それを検討いただく時間配分を考えていた。

**【前山委員】**

そうであれば協議事項ではなく、報告事項としなくてはだめではないか。協議事項で課題と検討と書いてある。そもそも会長と事務局のスタンスが合っていないのではないか。これを見れば、今日は地区懇談会の内容について話し合い、牧区で取り組まなければならないことを決めるのだと、皆さんは思って来られたと思う。報告事項とあれば誤解しなくて済んだ。

**【丸山 進会長】**

協議する問題が問題だと前山委員がまとめて来られたが、皆さんから意見が出たとなれば当然、時間の都合もあることから、次回もまた検討することもできるし、今年度の自主審議事項に挙げようとの方向にもなる。しかし、事務局への資料のまとめ方の要望はできるかもしれないが、この部分についての催促はできない。逆に視察研修は我々の企画でやっている。

## 【高橋所長】

前山委員から貴重なご意見をいただきました。地区ごとの意見の概要と、事務所に戻り所管課や関係機関に確認した中で、方針等を付け加えたものを皆さんのお手元にお配りした。地域協議会の事務局を受け持つ総合事務所としては、確かに地域協議会の運営に関することについてスムーズな運営をしていく面については、少し配慮が足りなかったと反省もしている。どのような趣旨で委員の皆様にお配りしたか、もう少し明確にすべきだったかと思うが、先ほども話したとおり、今後の自主的審議事項の参考にしていただきたいという思いが一番強く、直に地域の意見をお聞きしたので、是非、この中から牧区の課題や検討事項などをそれぞれ委員の皆様からもご検討いただければと思っている。どんな項目が地区ごとに出ているかとの集計に関しては、カテゴリごとにデータを作っているため、集計自体はそれほど難しくはないと思う。今後、どのような資料を作るか検討させていただくこととし、是非、この中から牧区で検討していくべきものについて、話し合いをしていただく題材にしていただきたいと思っている。

今日は欠席の方もおられるが、今日ここで、どうかと問うてもなかなか意見が出ないようなので、このような資料や次に審議される視察研修の項目の中からも課題は見つかるのだろうと思う。どのようなものを審議していくか取り決めをした上で、次の地域協議会等で具体的な検討事項の協議を行っていただくという方法もあるのではないか。その辺りを含めてご検討していただければと思っている。

## 【佐藤委員】

5月頃、この地区協議会に出席する他にも、例えばこの地区協議会や5地区単位、それを細分化したある程度の集落単位で大勢の方から話を聞く。それと同時に、私どもが意見集約をする中で、例えば世代別、地域の会合には子育て世代、特に子どもさんをお持ちの若いお母さん達やPTA、保護者会の世代の方々はほとんど来られないので、その方々、また、青少年関係のスポーツや様々な育成に参加されている方々など、そういった分野の方とも話し合いを進めていくべきではないかと意見を出した。各年代と地域からあらゆる層を対象に意見を聞くことが必要だと思う。よって、今回出されたことだけが牧区の全てではないと思うので、年度内の早い時期に、世代別の地域の会合に集まることのできない方々への働きかけ、例えばPTA協議会や保護者会など、小・中学校、保育園などの会合で時間を少しいただき、私どもが出向き、その場で意見を聞かないま

でもアンケートや提案するなりし、もっと諮って広く深くやるべきだと思う。ですから今日ここですぐ結論を出したり、すぐに課題を見つけて前へ進むのではなく、もう少し広く対象を広げてやってみてはどうか。

#### 【高橋所長】

他の地区協議会の例を申し上げますと、今ほど佐藤委員が言われたような関係機関や福祉関係、商工会関係などとの意見交換会を行っているところもあると思う。その中でいろいろなご意見をいただき、それを参考にして検討していくという方法を実際に行っているところもあるので、ご検討いただければと思う。また、佐藤委員はもう少し意見を集める時期ではないかというお考えだと思うが、それも確かにそうかもしれないと思う。

#### 【丸山 進会長】

この会議の持ち方等々の話であるが、当然、事前に検討はした。集落へ出向いても参加者は限られる。であれば保護者、学校の父兄等々も参加し、意見を聞くような機会を持つべき必要があるのではないか、との意見もあった。しかしながら行政サイドではこのような状況で開催された。であれば、我々が今度、ここに入っていない若者、あるいは中年層でもよいが、様々な職域、年代の方々からも意見を聞くことで、今の牧区として必要な事項を検討する方向も考えられる。それには確かに時間と労力を要するし、我々もこれを専門に仕事をしていれば、1月のうちに何度も各地区へ行き、資料をまとめられるが、皆さんも仕事を持った中なので、大変なことと思うが、是非そのような方向に持っていきたいと思う。早急に階層別、あるいは性別のように細分化した中での意見を聞く会を設けたいと思っている。

確かに地区懇談会では、生活に密着し切羽詰まった意見が挙げられている。しかし、我々はその中で委員として検討し、それぞれの立場で話し合うことが必要なことは確かである。行政は行政の立場で、市議員等に繋げていただきながら、進めなければいけない事業や問題点があると思うが、皆さんのご意見はどうか。

#### 【渡辺委員】

懇談会で出された意見・質問は、ほとんど行政側や市に向けられた内容である。それであれば、市から具体的に地域協議会で検討してほしい要望を挙げてもらえれば、我々も取り組めるが、それでなければ市への意見質問等に対して、我々が検討しようという



ことはできるのか。本当は地域協議会としての提示ができればそれに越したはないが、今の段階ではなかなかそれは難しいと思う。

#### 【丸山 進会長】

恐らく前山委員も、事務局の方で絞り込み、地域協議会で諮る案件を絞って出すようにと言われているのではないかと思うが。

#### 【前山委員】

せっかくなので、集計したものを報告させていただく。私なりの判断基準だが、圧倒的に多かったのは道路の問題で21件、いわゆる公共交通機関、バスの問題が9件、空き家の問題が9件、深山荘の維持管理等が7件、高齢者福祉施設を含めて高齢者の問題が7件、地域活動支援事業の内容を知りたいというのが5件、大まかにはこのような内容だった。今、渡辺委員が言われたように、河川や道路の問題等は行政の専任者にお任せするしかなく、我々が口出しするような問題ではないものも多い。例えばバスや深山荘、高齢者福祉施設にしても、これは管理者と行政の問題であり、我々が意見を言ったところでそれ以下のことにしかならない。では、私なりに牧区の課題は何かと考えたときに、非常に多かったのだが、いわゆる空き家対策の問題である。危険空き家をどう処分するのかから始まり、空き家情報をどう公開するのかと言った漸進的なものもあれば、きわめて急を要するものまで、空き家に対する意見が非常に多いと感じた。

前回の地域協議会で話したかもしれないが、やはり牧区と他地区の違いは空き家の問題で、今後10年、20年で圧倒的に増えていく。あちこちで廃墟となり、がれきの山が目に見えるようになる。例えば柳島町内会では戸数も多いが、高齢者の独居や2人暮らしが多く、メインストリートにも残してはおけない。まず上越市全市で考えるとすれば温度差がある。例えば自分たちがいなくなっても、次の代が継ぐのであれば、全くそのことを問題視はしないだろう。しかし、今住んでいる高齢者世帯がそこで生涯を終えたらその家だけが残ってしまう。そうなれば、財力に余裕がある人は更地にしていくだろうが、それはほんの一握りだと思う。言葉は悪いが、重機で潰してもらい、がれきの山にして勘弁してもらおうとか、今後10年、15年経てば、この幹線道路にそれが見えてくる。深山荘へ風呂に入りに来た人が、それを見ればもう二度と来ない、そんな地域にしていいのか。であれば牧区の問題は、廃墟となった家をどう処分するのかということではないか。私の町内のことになるが、基金を作り上げて、それを活用して補

助金と基金を積み立て、とにかく自分の家は更地に準ずるような状態にして終わらせる。これが私の常日頃考えていることである。行政でもまだ手をつけていない、でも牧区にとってみれば喫緊の課題である。ではこれを協議会として、ある程度方向性だけでも示していければなど、その心づもりで今日は来た。他の地区では見えなくても、山間地ならではの問題をきちんと協議していこうと思っているが、先ほどのようにこれは次にして、あれにしようと言えば、結局今年も方向付けもなにもできない。そんな1年で終わるのは意味がないし、何とかしたいと思い、今日はこれだけ言おうと思って来た。長くなったが、それが私の思いである。

**【丸山 進会長】**

前山委員からのような話が出るのは当然である。何も出なければ次へ進むだけで、初めからこんな問題をここで取り上げたいという意見を出してもらえば、それはそれで別に問題はない。行政ばかりでなく、地域協議会として委員が詰めていく問題として出していただければそれで済む。

**【前山委員】**

では提案する。

**【丸山 進会長】**

一つに偏らず他にもあれば平行して、佐藤委員が先程言われたように、その他の意見等もまた聞く機会も作りたいと思っている。しかしせっかく事務局からいただいた資料、また我々も参加させていただいた地区懇談会の問題点を、協議会でもう少し詰めていこうという話になれば、今回は空き家の問題等々について話し合いたいと思う。この問題についてご意見はないか。

**【西山委員】**

ここで意見が出たものについて、すぐには考えをまとめることは難しい。ある程度絞った形となれば、次回となるのか。

**【丸山 進会長】**

これは1回で済むような簡単な話ではない。ではこのことについて話し合おうということになれば、次にどういう資料が必要なのか、牧区のどこの集落で何戸くらいの空き家があり、それは地域で管理できるような状況の空き家なのか、完全な空き家なのか、そのような資料を用意し、押さえた中で詰めていかなくてはならない。

**【前山委員】**

そのとおりであり、シミュレーションを作ってきた。行政では、そこに誰が住んでいて何歳の方が住んでいることまでは把握している。しかし、そこに住んでいる65歳以上の方がこの先自分はどのような生き方をしたいのか、どんな計画があるのかということまでは把握されてはいない。こういうことは、やはり我々が担当を決めてそこに行き、あなた達はこれからどうするのか、息子さんの所に行くつもりなのか、息子さんが来るのかと、本音の部分聞くことで、牧区全体で何年後には何件空き家が出るというシミュレーションができる。行政からは、そこには何戸で65歳以上の方が何人住んでいるかを提供いただく。でもそこから先の個別対応というのは、やはり協議会委員が労を惜しんで行ってやらない限りは、きちんとしたものは出てこない。それが出てくれば、この幹線にはこんな空き家が出てくるというシミュレーションができる。あなたの家は将来どうするのか、息子から重機で潰してもらおうと言うかもしれないし、お金を持っている人は解体業者を呼んで更地にする、自分が死んだらどうなるかわからないとか、そこでいろいろな色分けができてくる。

**【丸山 進会長】**

その状況をチェックするのが我々の仕事だと。

**【前山委員】**

これは我々の仕事だと思っている。先にも言ったように、上越市の補助金制度は上限50万円で、2分の1はいわゆる危険家屋については補助されるが、これを行政からもう少し拡大解釈してもらおう働きかけてもらい、ある程度は補助金の対象になるようにし、後はボランティアというようになってくるのだろう。残された我々住民がどのように手助けをしていくか。格安な解体業者がいて、常識的な金額の個人負担で、いい人生だったと終わってもらいたいと思う。皆さんも耳にするとと思うが、家の解体に1軒300万円、処分すると500万円、亡くなる間に500万円持っている高齢者などいない。これでは廃屋が増えるばかりである。

**【丸山 進会長】**

今、1項目にしぼった話をしている。前山委員から空き家対策は全国的な問題でもあるが、牧区の中でも大変な問題になる、なりつつあるとのことから、協議会の中でもう少し詰めて、今年の審議事項の1項目に挙げたいという提案があった。それについて皆

さんから同意をいただければ、これは1、2回で済む問題ではないと思うので、毎回、どのように取り組むか審議を進めたいと思っている。

**【前山委員】**

私の経験による手法だが、1課題に対して全員が取り組むと、失敗するとそれで全てが終わってしまう。よって、全体を4人体制3班とし、それぞれの問題について取り組む。例えば私を含む班は空き家問題、佐藤さんを含む班は子ども・女性問題など、最終的に今年は1つしかできなかつたとしても、そのような位置付けで取り組む方がよいと思う。

**【丸山 進会長】**

少子化問題についてはこちらの委員を中心にしてなど、そちらの方が効率がよい。進め方としてそのやり方でよろしいか。

**【西山委員】**

前山委員の意見に反対するのではなく、言われていることも、やらなくてはならないこともわかるのだが、会長がおっしゃっているように全国的な問題になっているものを、牧区の一協議会がこれに取り組んだとしても、良い方向の結論が出るのかと思う。取り組んだところで、結局、金銭的問題が一番絡んでくるので、何も良い答えが出ないのではないか。根本は持ち主が一番問題になるのであり、果たして、地域協議会でそこまで突っ込んだ話ができるのか。むしろそれよりも、もっと身近で、ある程度実現が可能な、意見を述べられる問題から取り組んでいった方がいいのではないかと、私は個人的に思っている。

**【丸山 進会長】**

我々が簡単にできることであれば、もう全て終わっている。簡単ではないが、上越市としても大きな問題について、牧区として我々としてできる部分を考える。せっかくの組織なので、良し悪しをすぐ決めるのではなく、自分達でも考えてみて、議員、あるいは市長まで上げていき、結果的に協議でだめになればそれは仕方がない。そこまでの努力をやはり我々がするべきだろうということ。しかしながら、無報酬という中ではなかなか大変で、そこまで拘束できるかどうかということも少し気になる。しかし、せっかく与えられた4年間なので、やはりそれなりの努力あるいは知恵を出すのが、我々の責務ではないかと思う。前山委員と少し意見のやり取りはあったが、食い違いではなく、

意見としては諸手を挙げて賛成である。議員と違い、無報酬でこのような審議をすることについて、強制的に今日も明日も出て来い、この資料はあなたが作ってくれとは、私の立場としては、そこまでは言える状況になく、少し遠慮している部分だと思う。しかし、皆さんからご理解いただきながら、委員としてのできる限りの方向付けに持って行きたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

各部会で話し合うのは効率が良いだろうという案は、確かにそう思う。空き家対策という課題が出たが、事務局あるいは皆さんからも提出いただきたいと思う。それ次第では2班または3班になり、骨を折ってもできる限り効率の良い話し合いをしていきたいと思っている。

**【金井委員】**

もしそうなったら、事務局で割り振らず、私たちの意見を聞いて欲しいと思う。

**【丸山 進会長】**

部会に自分で特別の考えがあれば、提案方式としたい。

1部会で1人とならないように調整が必要だが、誰がどの審議をしたいかについては、皆さんからの要望をお聞きする。前山委員の提案が空き家対策、その次に例えば、できるかどうかは別として、バス、学校、少子化、これからの学校の在り方など、項目により割り振りをさせていただきたいと思っている。今さしあたって、空き家という話が出たので、空き家に対する情報、資料提供等々事務局にお願ひし、次回に出していただき、それについて詰めていきたいと思っている。その際、1、2の別の項目を提案したり、事務局から今回の皆さんの意見を踏まえた中で、協議してほしいというものがあったら出していただき進めたいが、それでよいか。

**【前山委員】**

ここで結論を出して結果を出すということではなく、我々が方向性を付けて市長に挙げるのが仕事である。

**【丸山 進会長】**

ここでは結果は出せない。

**【前山委員】**

ですから、西山委員が言われたことはナンセンスで、我々は結果をジャッジする立場ではない。

【丸山 進会長】

では、これでこの部分を終了させていただき、次の議題に移らせていただくがよいか。  
視察研修の所感及び反省等について、事務局から説明願う。

【綿貫班長】

資料により説明

【丸山 進会長】

私達が現地へ行き、直にそのいきさつ、あるいはその地域の状況等々をつぶさに目で見、耳で聞いてきた。前山委員は欠席されたため、資料についてわかりにくい部分があると思うが、牧区の危険箇所を①で、池谷集落の視察は項目ごとに分類し、見やすく作ってある。この資料は今日初めて皆さんのお手元へ配布させていただいたため、皆さんは目を通しておられないが、かいつまんで申し上げると、どこも同じような場所であるが、主に河川、川、橋が危険箇所となっていた。それに対して、どのような対処方法を取られているかお聞きしたいと思っている。ある集落では川が合流し、橋がかかっている。当然そこは通行止めになるが、そのことが地域住民にどのくらい浸透しているのか。道路改修まではできなくても、特に大雨が降った場合、あるいは土石流の場合は、地域住民がどんな対応、対処をするのか意見を聞きたいが、皆さんはどのように考えるか。その意見をここで集約し、行政の意見を聞きながら、協議会としての話し合いの結果を、早急に市の方へ挙げて行きたいと思っている。これも地区によって温度差があり、ある地区においてはハザードマップをきちんと正式にきれいに作っている、年に1回避難訓練と称してやっている地区もある。全く何もしない地区もあるが、当然何もしなければ地区の皆さんはテレビ・ラジオ等ではその問題点が報道されても、自分の地区として捉えていない部分があると思う。それが一番重要ではないかと思っている。今回は行政がピックアップした箇所を見させていただいたのだが、恐らくこれはごく一部だと思う。集落の上の方にため池があり、もし地震でため池が決壊した場合どうするのか。あるいは棚田に大雨降ると地滑りになるが、そこに人家はあるだろうかなど、その辺りまで踏み込んでいないのが事実である。皆さんから出てきた意見は、特に橋や川に関する部分が多いように感じる。我々としては地域協議会だよりを通じながら、どこの地区のどこが危険箇所、大雨時は土石流の可能性が高い場所なので、皆さん十分に把握しておくようにとお知らせするなど、この段階でも我々協議会委員の中ですぐにできる取組

である。その他にも、危険箇所指定の方が良いという場所があれば出していただきながら、総合事務所あるいは市に繋げていただく。さらに、もし災害が発生した場合、その地域住民がどう避難するのか、そこまでは我々がタッチできると思う。避難の誘導まではできなくても、その基礎知識くらいは委員の中でまとめて、その地域に流すことができるので、また皆さんにご意見を聞きながら、より具体的に委員としてできることをやっていただければと思うので、皆さんのご意見を出していただきたい。

#### 【西山委員】

この危険箇所の資料をいただき、具体的な写真と地図が載っていたので、お恥ずかしい話ではあるが、実は今まで消防団では、団員に資料配布や徹底したお知らせ経験はない。今回たまたま事務局と向かい合い、この資料を用い防災士と合同の研修会を行った。幹部の人達には既に資料が配られており、それぞれ自分の関係する地区については、ある程度わかっていると思う。そのような機会を捉え、会長が言われたように、いろいろな場面が出てくると思う。想定し、ある程度災害に備えなくてはならないと思うし、今この雨の降り方は全国的にも尋常じゃない降り方なので、何が起こるかわからない。研修でも大正3年に大きい地滑りが起きて、飯田川が災いしたとあった。詳しくはわからないが、家屋が流された。大雨時は水害、川の水が増水というより、いわゆる山の地滑りが一番恐ろしいので、資料も必要だが、危機管理体制ができれば良いと思っている。

#### 【丸山 進会長】

今回の危険箇所は初めて認識させていただいた部分だと思う。皆さんから、どのように検討するのがよいか意見をいただきたい。

#### 【西山委員】

ここで話されることは、実際に現場がどうかではなくて、もし災害が起きてしまった場合、集落を維持するための対応が必要となり、それを集落に知らせるための話し合いになるかと思うが、それには消防団、防災士は当然関連するので、その辺の人達にも、我々の方向性や話し合いの内容について、知らせていく必要もあると思う。

#### 【丸山 進会長】

いろいろな方法があると思う。地域協議会だよりも載せるのもひとつの方法だし、既に承知済みかもしれないが、町内会長連絡協議会の方に情報を流すのも手である。各地区の町内会長が自分の町内の危険箇所を把握しているのかどうか、もし把握されていな

ければ、地域住民の避難経路等を町内会長の立場で考えていただきたい等、できる可能性がある行動だと思うので、皆さんからご意見を出していただきたい。

もし意見がないのであれば、できる限り地域協議会だよりの担当委員から、具体的な場所を挙げていただき、どこの集落が、土石流、あるいは氾濫する箇所なので注意してほしい等、書いていただければと思う。そこを工事し直すのは、我々の領分ではないと思う。

ここの部分について、皆さんの意見はないか。それでは地域協議会だより編集委員からは、記事のひとこまにさせていただきたいと思う。

次に池谷集落のNPO法人地域おこし、農家民宿かくらについて、皆さんからの意見を項目ごとに分類し、整理させていただいた。目を通していただく間に、少しお話させていただく。1番目の移住者に関することでは、牧区における考え方が最初に載っている。計画をしっかり立て情報発信することによって、移住の増加が期待できるのではないかなという意見があった。計画が大変な部分かと思う。牧地区においてもよそ者大歓迎という政策が必要と思われる。いわゆるよそ者というのは移住者のことで、移住者を歓迎しながら、その皆さんからも一緒になって頑張ってもらえばよいのではないかなとの意見も挙がっている。この辺りが牧区として取り上げるべき問題で、協議会として協議し、詰めていく項目があれば出していただきたいと思っている。2番目の牧区に必要なものでは、人脈を生かした米の販売等について、これは自治体に取り組んでいるが、それに対し牧区ではどうすべきなのか。それから、一人で頑張らずに役割分散をとある。若者が少しでもいるうちに取り組んだ方がよいという意見、次には年配者が仕切り過ぎている、ある程度になったら隠居して若い者を出すとの意見もある。

#### 【西山委員】

当集落は春先に総会を開くが、今年の総会で提案があった。移住者から仲間入り金をもらっていた。今まで12万円か15万円だったが、こんなことをしていたら誰も移住して来ないだろうという役員の話から、負担なしにしようという意見が出たが、今まで徴収してきたのだから負担なしについては反対された。結果的に4万円か5万円に落ち着いた。なぜ負担なしにならなかったかというのと、過去に高齢者が移住してきて火災保険金詐欺のようなことがあったから。池谷地区の場合は、地域おこし協力隊の人がそのまま転職してくれたので、皆さんとも打ち解け、定住したので、結果的にはうまくいっ



ているのだろうけど、牧区の場合は、まだ地域おこし協力隊自体が牧区にいないので今後どうなるのか。

#### 【丸山 進会長】

全体を通して、素晴らしいリーダーがあつてこそ、池谷集落がああやって成り立っている。そこで生まれ育った生え抜きの若者ではなく、外部からいろいろな情報を持った人が入ることで、あそこまで発展できる。また、それと平行していろいろな所に人脈を持ち、頭の強い人でいろいろな資金を集めてその活動に充てている。その手法等々は見事なものだと感激して帰ってきた。いきなりあのような活動をしろと言われても難しいが、我々ができる範囲で、あるいはできなくても、自分たちの地域を可能な限りそのような方向付けにしたいという願望は、恐らく皆さんお持ちではないかと思われる。その中で、全体を通してどうしても推進したいという部分があれば、どんどん出していきたいし、その意見を一番皆さんから聞きたい。逆に、まとめきれないほど意見が出て、自分はその考えには反対で、こういう考えだ、そんな意見の衝突も当然あるものと思ひ、今日は来ていた。その辺りをどうまとめるか、自分の中で悩みながら来たのだが、ご意見はどんどん出していただければありがたい。決して全部まとめてどうするという考えはない。

3番反省点・要望の中に、まとめとなる部分が載っている。しかし、変にまとめるつもりはない。それぞれ同じ牧区でも地域によって考え方、あるいは地域の皆さんの人間性等々が微妙に変わっているので、一概にこのようにやっていくというのは、なかなか難しい部分があると思う。

#### 【渡辺委員】

特定の地域を地域おこし協力隊が、活気あるものにしていこうという発想をするのか、あるいは牧区全体が、もっと若者が定着して昔のような形に戻していくのか、なかなか難しいが、限界集落どころでなく、牧区はもう消滅集落が出てくるような状況なので、どうすることがよいかわからない。高尾町内会ではいろいろな試みをされて、人を呼んできているが、あの形も一つの地域おこしをやっておられるなど思う。問題は池谷集落も牧区も、そこに来られた人が移住し、定住していくのかどうか。移住者が高齢者で亡くなってしまうのではあまり意味がないし、地域おこしにはあまりならないと思うので、やはり若い人がそこに定着していくかどうかが、一番問題だと思う。そのためには何を

すればよいか考えているが、なかなかこれというものが見つからない。

#### 【前山委員】

先日、テレビで面白い事を言っていた。ある過疎で悩んでいる地域に新築で家をどんどん作って、そこに家賃3万円で貸すとのこと。20年住み続けて3万円を払っていくと、その家が今度は自分のものになる。だから、結局はそのような施策を打たないと本当に人は来ない時代なのだろうと思う。あれを見た時に、ちゃんとした家に畑も付いて、更に子供がいると3万円から5千円引きで、20年払い続けるとそこが自分のものになる。上越市という大きな自治体ではできないことだが、例えば弥彦村などではできると思う。そのようなことで、やっと人を集めていると言っていた。やはりちょっとしたようなことでは人を呼び込むというのは難しい。意見ではなく情報としてお話するが、私の息子はウェブのインターネット関連の東京の会社にいる。来訪客がどんどん来るが、少し前までは、自分の場所ではこんなことをして、こんな地域おこしを考えているので協力してほしいと、地方のNPO地域おこしの関係者が来ていた。そこには1ヶ月何億ビューというサイトを閲覧する人間がいるから、そこにバナーを貼ってほしいとか、タイアップしてほしいなど、絶えず来ていた。最近はNPO法人の他に行政の広報担当が来るようになった。資料にもマスコミへの発信が鍵になるということが、1行書いてある。まさにその通りで、それを実践している行政府があるということ。使える人が見るサイトで、どんな手を使っても自分たちの物を紹介したい、佐藤委員のご主人がテレビに出演されて、あれも一つの媒体だと思っているが、やはりとにかく人を呼び込みたい、過疎を解消したいというところは、実際にはそのようなNPO法人含め、行政の広報が日参している。これが今の実態とのこと。しかし、たくさん来るがみんな同じような内容だ、だからよほどとんでもないことを考えなければ、今の若者をこちらに呼び込むのはすごく難しい、そんなアドバイスをくれた。実態はこういった書面や言葉だけでなく、実際にやっている自治体がどんどん増えているとのことだった。

#### 【丸山 進会長】

いろいろなやり方があると思う。渡辺委員が言われたように、果たして牧区全体で考えていいのか、あるいは池谷集落のような6、7戸の小さな集落を参考とし真似しようとしても絶対できるはずがない。しかし、学ぶべき部分はかなりあると思う。インターネット等で興味ある人を一時的に呼び込んできて、仮に2泊3日で集落へ泊ってもらう

方法も一つの方法だと思うし、そのためには、地域おこし協力隊も必要だが、その地域に住む住民の皆さん方の意識付けが一番問題ではないか。自分はこの集落にもうあまりいられないかもしれないが、他人に来てもらったとしても集落をつぶしたくないという諦めではない意識的な部分で、いろいろな活動が始まるのではないか。どのように地域の皆さんの意識を醸成するのか、皆さんの感じることをお聞きしたい。また、高齢者だからといって田んぼ仕事ばかりが仕事ではない。かくらでは80歳のおじいちゃんがそばを打ち1500円で食べさせている。80歳になってもやる気があれば、いくらでもそれなりの仕事はある。そういう気持ちを年配の皆さん方に持っていただくには、どうしたらいいのか、我々が考えていく部分ではないか。簡単なことではないが、皆さんの考えを出してほしい。

#### 【佐藤委員】

視察の時に話をさせていただいたが、私ども雪太郎の郷に就職してくれた方が、5年ほど経って、ここにいつまでも住みたいと言ってくれた。先ほどの空き家対策にも通ずるが、空き家になったお宅を家主から1ヶ月1万円の家賃で10年間、その後は引き渡すとの契約が成立した。その代り土地屋敷や倉庫周りの草刈りと維持管理をする契約とのこと。地元としては本当に嬉しくて、次は連れ合いを探してあげようと、みんな色めきだっている。その他にも年の半分はこちらで農業をされている方、別荘にしている横浜の方もおられる。こちらは集落の新年会に顔を出し、一緒に歌を歌ったり酒を飲んでくださったりして、我々にはない若さや経験など、色々なことを知っているのも、そのことをこちら側も活用するし、来てくれた方もこちらの昔からの風習など、色々なことを教わろうとしてくださっている。先程の前山委員の話のとおり、75歳以上の後期高齢者の一人暮らしが増えて、本当にこれからどうするのかとの思いが込み上げてくる。できる限り外部から人を連れて来たり、息子さんの嫁さがしなど、互いのことをさらけ出しながらやっていかなければ、本当に小さい集落は立ち行かなくなる気がしているが、お互いに紹介し合ったり、若い人だけを集めて一杯飲もうとか、そんな動きが出てくるのは良いことではないかと思う。それはその地区のその町内会の特徴もあり、全部が同じではないので、それぞれのやり方があり、それぞれの人が色々な意見を自分達のものにする、そこから始めることが一番ではないかと感じた。

### 【金井委員】

私たちの集落は佐藤委員のような明るい話題は全くない。未婚のあんちゃん達と言っても、その人達はもう50歳を過ぎている。それでも体育祭などに出てくれて、その後慰労会で話を聞くことはあるが、その他のことは何もない。私達は青空市場も開いているが、仲間の80歳過ぎおじいちゃんが、とにかく1年中自分で何を売るかを考えていて、とても頑張っている。誰か頑張る人がいれば、みんな付いてきてくれることもあると感じる。

### 【丸山 進会長】

私も川上地区の祭りのたびにお伺いしているが、そういう部分では活気があると思っていた。何かの機会をとらえて、ここにこんなに元気なお年寄りがいるということを知らしめるために、たとえば地域協議会だよりに載せていただくなど、牧区の人が元気になることを是非考えていただきたい。

### 【折笠委員】

当集落も毎年地域活動支援事業補助金をいただきイベントをやっている。来場者は多ければ200人くらいだと思うが、人を集めるのが難しい。ボランティア集め、隣近所への声かけ、テレビ・ラジオで宣伝、その程度しかできない。毎月のように人を集めて移住者を入れる、このやり方と言うか、どんな魅力があるかをもう少し知って勉強したいと思っている。子ども達は町場へ出して、その状況の中で人を集めるにはどうすればいいのか勉強したい。

### 【丸山 進会長】

そのようなイベントの人集めに苦勞されている部分があると思うが、それを糧に集落の存続にも繋がれば、大変に望ましい。

### 【五十嵐委員】

先ほど渡辺委員からも話があったように、5月から毎月1回、高尾で個人が始めたお茶のみ散歩が、徐々に人が増えてきている。その中で、空き家対策と並行して、この街に住みたいという声が聞かれるまで、このような取り組みができれば理想的ではないかと感じた。

### 【西山委員】

私の集落では、結婚して牧区から出て行った息子さんが、自分達の親と住むために帰

ってくるという明るい話題があった。青年会の若い人達が集まっているようなので、うまく中心になってくれることを望んでいる。

**【丸山 進会長】**

研修したことを協議会で取り上げる部分があると思っていたが、やはり小さな集落の取り組みなので、牧区全体での取り組みというのは、先ほど申し上げたとおり、なかなか真似ができない。ただ精神・考え方・手法等々を参考にできる部分があるかと思うので、是非、自主的審議事項等の中に組み込める部分があれば、次回皆さんから整理して、意見として出していただければありがたいと思っている。皆さんから言いつ放して終わらせていただくがよろしいか。大いに参考にさせていただいた部分があるので、それだけでもためになったと思う。

報告事項1番の牧区と清里地区との協議会の合同研修会の開催について、事務局から説明願う。

**【風間主任】**

資料に沿って説明

**【丸山 進会長】**

日程と時間は私の方で一方的に決めさせていただいた。明日の会議で若干変更になると思うが、恐らく開催日に変更はないと思う。先ほど申し上げたように、清里区と牧区は同じ中山間地で、同じような生活環境であり、悩み問題点等々は似通っているのではないかと思うため、このような試みを去年に続けて計画した。後日、用紙等を送付し、出欠席の取りまとめをするので、よろしく願いしたい。

次に2番目の7月の大雨の被害状況について、事務局から説明願う。

**【高橋所長】**

資料4 牧区被害状況一覧（その他被害等）という資料をご覧いただきたい。これについては、前回7月4日の協議会でナンバー10まで報告させていただいた。その後、地域の方から報告があった案件もあり、結局7月初めの大雨については、牧区で20件の被害があったということになる。すでに発注済みのもものもあつたり、稲刈り後に実施するものもあつたりということで、現段階での復旧にかかる経費は、20件で904万3千円程と担当から聞いている。発注済みが383万、稲刈り後に発注するものが521万円ほどという形になっている。地域、板倉総合事務所と連携を取りながら順次復旧を

行っていきたい。

次に、8月18日先週の金曜日に短時間での大雨があった。そのための被害も7件発生している。これについても現場を確認し、これから復旧作業にかかっているところである。まだ見積もりが出てこないが、概算で480万円ほどかかるのではないかとの試算が出ているところである。この日は高尾の雨量観測地点で、短時間ではあったが1時間に31mmという観測があり、それによる被害があった。

【丸山 進会長】

以上で今日の報告事項等終わらせていただく。他に案件はないか。

【渡辺委員】

次回の協議会は9月26日で確定か。

【丸山 進会長】

年間計画の中ではそのようになっている。今のところ、当初の計画どおりとしたいと思っている。

【丸山 進会長】

その他、委員からの意見等を求めるが無く、会議の閉会を宣言する。

## 9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-533-5141（内線147）

E-mail：[maki-ku@city.joetsu.lg.jp](mailto:maki-ku@city.joetsu.lg.jp)

## 10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。